

投稿細則 (令和元年8月9日改訂)

1. 原稿について

原稿本文は、Microsoft Wordなどの汎用ソフトを使用し、A4版用紙(縦長)で横書き、1行全角35文字、1ページ30行程度とし、全周囲に2.5 cm程度の余白をとり、適正なフォント(例えば12ポイント、明朝体など)で作成すること。なお、刷り上がり1ページは1600字程度である。原稿は、原則として現代かなづかいとし、できるだけ常用漢字を用いる。生物の和名、外来語、外国の地名・人名(原語によらない場合)は、カタカナを用いる。ローマ字、アルファベット、アラビア数字等は、必ず半角文字を使用する。英文原稿の体裁は、本会英文誌(Mycoscience)の投稿規定に準ずる。

2. 原稿の形式について

論文および総説は、①表題、②著者名、③勤務先と所在地(あるいは住所)、④英語の表題、⑤ローマ字の著者名、⑥英文の勤務先と所在地(あるいは住所)、⑦英文要旨(200語以内)、⑧5つ以内の英語のキーワード(アルファベット順)、⑨本文、⑩和文の摘要(400字以内)、⑪引用文献、⑫図の説明、⑬表およびその説明、⑭図の順とする。なお、本文の項目分けは、原則として緒言、材料および方法、結果、考察、謝辞とし、各項目では小見出しをつけてもよい。結果と考察は、まとめてもよい。図表は英文で書くことができる。

短報および資料は、前項①~⑧、⑩~⑭については論文の場合と同様とする。ただし、⑦の英文要旨は100語以内、⑩の和文の摘要は200字以内とする。⑨の本文は項目分けを行わない。

表題には、業績番号を記すために脚注をふることができる。連名著者に対応する所属先を示すには、著者名の右肩に片括弧づきの算用数字をつける(例:^{1), 2), 3)})。また、著者の現所属や論文問い合わせ先を記すために、脚注を*, **, ***の順でふることができる。

3. 新分類群(new taxa)の記載を伴う論文について

国際的な公表通知が要求されるため、本会英文誌(Mycoscience)に投稿することが望ましい。

4. 学名の取扱いについて

学名には、正確を期するために命名者名を明記する。命名者名はフルスペリングするか、省略する。後者の場合は、Authors of Fungal Names (Index of Fungi Supplement, Kirk and Ansell (1992), あるいはそのオンライン版 <http://www.indexfungorum.org/AuthorsOfFungalNames.htm>) に従う。原稿中で再出する場合は、混乱しない限り、二名法による属名は頭文字1字に省略する。

ただし、学名が文頭にくる場合は属名をフルスペリングする。表題、英文要旨、摘要での学名は命名者名を省く。また、学名のうち属名と種小名はイタリック体とする。

5. 証拠標本、培養株およびシーケンスデータについて
証拠標本と培養株は、公的な機関[例えば、Index Herbariorum や World Directory of Collections and Cultures of Microorganisms—Bacteria, Fungi and Yeasts—の最新版またはオンライン版 (<http://sciweb.nybg.org/science2/IndexHerbariorum.asp>; <http://wdcm.nig.ac.jp/hpcc.html>) に掲載されている機関]に寄託し、論文中に標本番号や培養株番号、標本や培養株のデータ[産地(国名と地域名)、基質(宿主など)、採集日や分離日、採集者や分離者]を明示する。論文で用いたシーケンスデータおよびアライメントデータは、DDBJ (<http://www.ddbj.nig.ac.jp/>)、GenBank (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/Genbank/>)、TreeBASE (<http://www.treebase.org/treebase/index.html>) などの公的データベースに登録し、論文中にその登録番号を明示する。

6. 図・表について

1) 表はMicrosoft Word, Excelなどで作成し、通し番号(Table 1, 表1など)をつけて本文とは別のファイルとする。表題は表の本体上部に記す。注は右肩に片括弧づきのアルファベットで示し、本体下部にその説明を記す(例:^{a), b), c)})。統計学上の有意差を示すためにアルファベットを用いる場合は、小文字とする。

表の挿入希望箇所は、本文該当位置の右欄外等に明示する。

2) 写真、グラフ、線画はすべて図として扱い、通し番号をつけ、JPEG, BMP, TIFF, EPS, Photoshop (PSD), Illustrator (AI) などの形式で本文とは別のファイルとする。図は印刷の体裁を整えた鮮明なものとし、モノクロ写真、カラー写真は300dpi以上、線画は1200dpi以上の解像度を有するものとする。印刷時に著者が原図の印刷物を準備する必要があるときは、1カラムに収める場合は8.2 × 23.0 cm, 2カラムを使う場合は17.2 × 23.0 cm以内とする。写真および線画には実長を示すスケールを入れ、文字は印刷した活字等を用いる。図の説明は本文の最後に記載する。挿入希望箇所は表と同様に明示する。

3) カラー印刷を希望する場合は、その旨を投稿票に明記する。

7. 引用文献について

本文中では、引用箇所に著者名と年号〔著者名(年号)または(著者名 年号)]を明記し、肩数字は用いない。著者が3名以上の場合は、原則として2番目以降の著者名は省略形を用いる。括弧内に引用文献を列記する場合は、著者名と年号の間にスペースを入れ、セミコロンで区切って年号順にならべる〔(著者名 A 年号; 著者名 B 年号)]。

引用文献の項では、文献は著者名のアルファベット順にならべ、本文末尾に一括記載する。複数著者による文献で第一著者が同一の場合は、第二著者のアルファベット順が年号順より優先する。また、同一著者の場合、ダッシュ(—)は用いない。引用の様式は、著者名、年号、表題、雑誌名(書名)、巻数、ページの順に記す。単行本には出版社とその所在地を明記し、所在地が複数のときは最初の1つのみを記す。同一雑誌に対しては *ibid.* は用いない。雑誌名の省略法は“Biological Abstracts”に従う。なお、本誌の略称は日菌報とする。

〔(印刷中)〕または〔(in press)〕を付すことのできる引用文献は、その報文がすでに掲載決定されている場合に限る。単に受け付けられたにすぎない論文原稿は、本文中に〔(未発表)〕または〔(unpublished)〕とするにとどめ、引用文献には加えない。また、発行所・ページ数の不明など、下記の事例の要件を満たさない文献は、原則として引用文献には含めない。

例：

i. 雑誌引用

- Horn WB (1989) Ultrastructural changes in trichospores of *Smittium culisetae* and *S. culicis* during in vitro sporangiospore extrusion and holdfast formation. *Mycologia* 81: 742–753
- Hyde KD, Chalermpongse A, Boonthavikoon T (1990) Ecology of intertidal fungi at Ranong mangrove, Thailand. *Trans Mycol Soc Jpn* 31: 17–27
- Hyde KD, Farrant CA, Jones EBG (1986) Marine fungi from the Seychelles. III. *Aniptodera mangrovii* sp. nov. from mangrove wood. *Can J Bot* 64: 2989–2992
- Hyde KD, Rappaz F (1993) *Eutypha bathurstensis* sp. nov. from intertidal *Avicennia*. *Mycol Res* (in press)
- 池ヶ谷のり子・後藤正夫 (1988) シイタケ菌の子実体形成に及ぼすフェノール物質の硬化. *日菌報* 29: 401–411
- Nandson GA (1911) The sexual process in yeasts and bacteria (in Russian). *Russkij Vrach* 51: 2093
- Udagawa S, Kamiya S, Tsubouchi H (1994a) *Aspergillus*

salviicola, a new species from imported spice. *Mycoscience* 35: 245–248

Udagawa S, Uchiyama S, Kamiya S (1994b) A new species of *Myxotrichum* with an *Oidiodendron* anamorph. *Mycotaxon* 52: 197–205

Udagawa S, Uchiyama S, Kamiya S (1994c) *Petromyces muricatus*, a new species with an *Aspergillus* anamorph. *Mycotaxon* 52: 207–214

ii. 単行本

全体引用：

Domsch KH, Gams W, Anderson T-H (1980a) *Compendium of soil fungi*, vol 1. Academic, London

Domsch KH, Gams W, Anderson T-H (1980b) *Compendium of soil fungi*, vol 2. Academic, London

原田幸雄 (1993) キノコとカビの生物学. 中央公論社, 東京

Kohlmeyer J, Kohlmeyer E (1979) *Marine mycology: the higher fungi*. Academic, New York

部分引用：

Cooke RC, Rayner ADM (1984) *Ecology of saprotrophic fungi*. Longman, London, pp 305–320

渡邊恒雄 (1993) 土壌糸状菌. ソフトサイエンス社, 東京, pp 82–109

Wolf FA, Wolf FT (1947) *The fungi*, vol 2. Wiley, New York, pp 339–363

章の引用：

Gams W, Christensen M, Onions AH, Pitt JI, Samson RA (1985) Infrageneric taxa of *Aspergillus*. In: Samson RA, Pitt JI (eds), *Advances in Penicillium and Aspergillus systematics*. Plenum, New York, pp 55–62

Sagara N (1992) Experimental disturbances and epigeous fungi. In: Carroll GC, Wicklow DT (eds), *The fungal community*, 2nd edn. Marcel Dekker, New York, pp 427–454

徳増征二 (1983) 落葉生菌類. 菌類研究法 (青島清雄ら編). 共立出版, 東京, pp 107–116

iii. 国際学会の要旨集あるいはプロシーディングス

Kirkpatrick B, Smart C (1994) Identification of MLO-specific PCR primers obtained from 16S/23S rRNA spacer sequences. 10th International Congress of the International Organization for Mycoplasmaology (IOM). Bordeaux, France, July 19–26, pp 261–262

Kreisell H (1991) Neoteny in the phylogeny of Eumycota. In: Hawksworth DL (ed) *Frontiers in mycology*

(4th International Mycological Congress 1990).
CAB International, Wallingford, UK, pp 69–84

iv. 博士論文

Powell PE (1974) Taxonomic studies in the genus *Hyphoderma*. PhD thesis, Cornell University, Ithaca, New York

8. 単位について

数字はアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法により、略字によって記載する。量単位は原則として国際単位系（略称 SI, Le Système International d'Unités）を用いる。やむを得ず非 SI 単位系を用いた場合には、明確に説明すること。

単位の書き方は次の例に従う。単位記号の書体はローマン体で、省略記号をつけない。ただし、吸光度、重力加速度のようにイタリック体にするものがあるので注意すること。略記単位には複数でも s をつけない。

長さ	nm, μm , mm, cm, m
質量	pg, ng, μg , mg, g, kg
物質量	nmol, μmol , mmol, mol
モル濃度	μM , mM, M
面積	mm^2 , cm^2 , m^2
容積	L, μL , mL, cm^3 , m^3
時間	s, min, h, d, wk, mo, yr
温度	$^{\circ}\text{C}$ (例: 37°C), K
吸光度	A (例: A_{260})

重力加速度 g (例: $10,000 \times g$)

分子量 Da, kDa

水分活性 Aw

光 J, lx, Im, W

溶液の濃度はモル濃度 (M) を用いることが望ましい。% や ppm はできるだけ使用せず、mg/g, $\mu\text{g}/\text{mL}$ などと表記すること。やむを得ず使用する場合は、正確を期すため、v/v, w/v, w/w などをあわせて記すこと。

9. 略記について

通常広く用いられている略記は注釈なしで用いてよい。ラテン語またはギリシャ語に語源をもつことばの略字はローマン体とする (例: ca., et al., i.e., e.g.)。

物質名の略語・記号は、専門分野で国際的に認められているもの以外は用いない。物質名、酵素名などで略語を用いる場合は、初出のときは省略せず、その後に括弧 () で略語を示す [例: glutamate-oxaloacetate transaminase (GOT), malate dehydrogenase (MDH) など]。

10. その他

測定値は「長さ×幅」とし、例外的な値は括弧内に入れる。平均値などは別に示す。

直径は diam とする。

例: (10–) 13–16 (–18.2) \times 7–8 (–11) μm , 平均値 $15.5 \times 7.5 \mu\text{m}$ 。